

■日時：平成26年10月3日（金） 午前10時～11時30分

■会場：府中市立ふるさと府中歴史館3階展示室

■出席者：（敬称略）

[委員] 亀山 章、坂詰 秀一、野澤 康、藤井 恵介、大室 容一、大津 貞夫、
田中 篤也、長島 剛、中村 義博、永山 健一、濱中 重美、今坂 英一、
雫石 明男、町田 昌敬

[指導助言]市原 富士夫、伊藤 敏行

[事務局] 後藤部長、江口課長、黒澤課長補佐、和田主査、荒井主任、小林
（以上、文化スポーツ部ふるさと文化財課）

[コンサルタント] 株式会社歴史環境計画研究所 秋山、小野

■欠席者：（敬称略）

[委員] 佐藤 信、猿渡 昌盛、岡野 光男、中川 健介

[指導助言] 市原 富士夫、深澤 靖幸

■傍聴者：なし

■議事日程

- 1 開 会
- 2 文化スポーツ部長挨拶
- 3 委員の就任・退任について
- 4 議 題
 - (1) 国史跡武蔵国府跡（国司館地区）保存整備基本設計（案）について
 - (2) その他
- 4 閉 会

■配付資料

- 資料1 国史跡武蔵国府跡（国司館地区）保存整備基本設計説明書
- 資料2 ガイダンス施設展示（案）
- 資料3 国史跡武蔵国府跡（国司館地区）保存整備基本設計（案）

■会議録

- 1 開 会
事務局の司会により、午前10時に開会した。

2 文化スポーツ部長挨拶

3 議 題

(1) 国史跡武蔵国府跡（国司館地区）保存整備基本設計のスケジュールについて

<会 長>

それではまず、事務局より資料の説明をお願いします。

<事務局>

[事務局より、配付資料に沿って説明]

<会 長>

ありがとうございました。A・B・C 案の提示があったが、はじめに資料についてのご質問等ありますか。

<A委員>

北側の江戸時代の遺構があるエリアは舗装するのか。

<事務局>

舗装である。

<A委員>

周辺をシラカシで囲むとのことだが、シラカシを植える理由は。歴史的な意味があるのか。

<B委員>

シラカシはこの地域の屋敷林として極めてポピュラーな木である。屋敷林の木で良いのかどうかは検討の余地がある。

<会 長>

屋敷林の木で良いのか、整合性は必要である。

<A委員>

S B 5 を復元すると敷地からはみ出すのでは。

<事務局>

原位置での復元が原則であるため、一部がはみ出す形となる。

<会 長>

これについては今後詳細な検討が必要である。

<B委員>

資料3のC案に「復元建物の耐用年数は20年程度か?」と記載があるが、屋根は20年程度で、柱の耐用年数は40～60年くらいもつと思われる。

<会 長>

ランニングコスト・耐用年数については今回は参考程度にご確認いただきたい。

<C委員>

掘立柱建物の復元は、実際に柱穴を掘って柱を立てて復元するのか。

<事務局>

施工方法については、古代工法で実際に柱を立てて復元する方法と、現代工法で「掘立柱建物風の」建物を建てる方法がある。古代工法の場合は維持管理にコストがかかると想定される。詳細は今後検討していく。

<D委員>

芝を張る必要はあるのか。

<事務局>

国史跡の整備の一般的な事例として、地下遺構の保存や多目的に使える広場としての活用を考えて芝生を採用している例が多い。

<C委員>

周辺の土地利用などの都市計画上のこと、人の動線、車の動線、J R府中本町駅の建替えの有無等の将来構想と合わせて考えながら進めていかなければならない。

<事務局>

市として庁内で十分に検討しながら、文化庁・東京都の指導のもと進めていきたい。

<E委員>

府中にはJ R A競馬博物館がある。展示の協力も可能なので検討いただきたい。

<事務局>

是非、連携をお願いしたいと考えている。

<C委員>

このA・B・Cの3つの案の中から選ぶなら、ガイダンス施設と復元建物があるC案が単純に良いのでは、と思った。C案の場合、遺構の保存に支障はあるのか。

<事務局>

前回の協議会でB委員からお話をいただいたように、盛土をして地下の遺構を傷めない形で整備することは、A・B・Cのどの案でも可能である。文化庁・東京都のご指導をいただきながら、具体的な方法を検討していく。

<会 長>

それぞれの案にメリット・デメリットがあり、方向性に含みを持たせた表現となっている。

<B委員>

何らかの施設ができるとして、シラカシの屋敷林で周囲を囲んで中が見えなくなってしまうのは良くない。逆に、広い場所で何も無いところは、夏場に暑すぎて活用できない。日陰や屋根のある場所を確保する方法を検討したい。

<会 長>

周辺地域の環境整備の問題と、遺構周囲の環境整備の問題がある。遺構周辺については方向性が定まれば決まっていこう。

前回の協議会での皆さんの意見をもとに事務局がA~C案を作ったものだが、私個人としては、ランニングコスト・イニシャルコストを考慮したうえで、B案を基本とした第4の案があっても良いと考えている。ガイダンス施設は遺跡の意味づけや情報発信のために不可欠なものであるが、建物以外のエリアの空間利用を考慮して、ゆとりを持った配置とする。また、天然芝ではなく人工芝を採用することでランニングコストを軽減することができる。イニシャルコストについては文化庁の補助金で、ということになるが、補助金の観点から文化庁のお話を伺いたい。

<文化庁>

補助金については制限や縛りもあるが、先進的な取組には使っていただきたい、と

考えている。

この土地を公有地化するために文化庁として80%の補助を出しており、そうしたからには、その後整備・活用にあたっては説明責任がある。A案の場合、たんなる広場になるようでは説明責任が果たせない。

この史跡内のみで全てを考えるのではなく、対象範囲を拡大して考えるべき。武蔵国の歴史文化遺産を巡る導入部として国司館地区を位置づける。府中駅からケヤキ並木、大國魂神社を経てここに至るまでの、全体の整備として考える必要がある。

例えば、鎌倉市では、「観光の史跡」ではなく「市民の史跡」としての観点から、国交省も交えて整備計画を作っている。府中市においても、ふるさと文化財課だけではなく市全体の計画として、歴史的風致を踏まえた上での駅前整備、ケヤキ並木を含めた市街地整備へと進めていく、ということをご提案したい。

ハード整備としては、A～C案いずれも可能であるが、協議会でのこれまでの議論や意見を十分に反映できないのではないかと。前向きに計画を進めていくために、提案をさせていただきたい。

<会長>

観光の観点から、F委員いかがですか。

<F委員>

ガイドンス施設だけで、何度も来訪したくなるような史跡になるだろうか。行くたびに発見があるようなものがないと人は訪れない。また、時間のかかることかもしれないが、都市計画の部分の根底を考えておかないと、連携もうまくいかなくなる。

<G委員>

ここが府中市の遺跡・観光の拠点となるような駅前の賑わいを生み出したい。ガイドンスも国司館の復元も、両方必要だと思う。観光の拠点となるためには駐輪場や駐車場も必要になると思うが、これらは含まれるのか。

<事務局>

ガイドンスを訪れる人の駐輪場・駐車場は考慮したい。

<会長>

駅前のパブリックゾーンを取り込んだガイドンスゾーンを検討してはどうか。

<H委員>

(JRとして)府中本町駅前との接続については、市と相談し協力していきたい。

<I委員>

ハードの整備を進めつつ、使い勝手の良い施設にしていくためにソフトの開発も必要である。徳川家康のクローズアップ、以前開催していた歴史まつりなどの企画、多賀城市や他の国府所在地との交流など、活用のためのスペースを確保しなければならない。

<J委員>

今の計画案では、果たしてリピーターを創出することができるだろうか。何か仕掛けを作る必要がある。他の史跡とは異なる、市街地にある史跡だということをもっと考慮してほしい。

<K委員>

奈良時代と江戸時代のシェアについて、もう少し検討が必要では。

計画案の中で「来場者数見込み」と「経済効果」が抜けている。JRやJRAとの連携についても網羅されるべき。また、利害関係者ではない民間人や、大学生などの若い力を借りて、アイデアを求めていく必要があるだろう。

<東京都>

芝を張ってガイダンス施設を建設する、という手法は、史跡の保存整備としてはオーソドックスなものである。当協議会でずっと話題となっているのは、駅前にある史跡として、整備にあたって史跡以外の要素をどの程度盛り込んでいくかということだと思う。都市公園的な利用も考えなければならないし、先ほど文化庁から提案のあった、国交省の歴史まちづくり法による整備、という選択肢もある。これらを踏まえて、市域全体を見据えた計画の検討を進めていただきたい。

<B委員>

本日の協議会では、商工・観光の立場から、率直な厳しいご意見もいただいたが、これを市としてしっかりと受け止め、次の段階へと進んでいただきたい。

<会 長>

「観光考古学」の実践には難しい側面もあるが、本来、史跡には多様な価値観がある。経済資本であるだけでなく文化資本であり、未来を見据えた文化資本の最たるものが史跡である。今後とも、幅広い分野の方々から意見をいただきたい。

(2) その他

第3回検討協議会は、12月下旬～1月上旬に開催予定。全委員の予定を確認し、調整したうえで日時を決定することとした。

4 閉 会

午後4時をもって閉会となった。